



旧慈光院跡から興行列で一路本山へ向かう



高田山専修寺

下野國芳賀郡

一光三尊佛さまとは、中央に阿弥陀さま(阿弥陀佛、阿弥陀如来)がおられ、その両脇に観音菩薩さまと勢至菩薩さまが立たれています。

一光三尊佛さま
平成二六年六月一日(第五十回高田派婦人連合会が盛大に開催され、御影堂満堂の中、最初にご出席の皆様によって『真宗宗歌』が歌われました。この歌は「ふかきみ法にあいまつる」で始まり、第三番目の歌詞が「海の内外のへだてなく、みおやの徳のとうとさをわがはらかに伝えつつ浄土の旅を共にせん」です。この「みおや」こそ、阿弥陀さまのことです。では、「みおやの徳」とは、どのようなものなのでしょう。それを教えてください。一光三尊佛さままであります。



護法

第46号

発行
福井県真宗高田派護法団
福井市花堂南2-10-35
真宗高田派福井別院内

一光三尊佛御開帳

十七年に一度ご縁にふれる 親鸞聖人直拝

【中開帳】平成27年4月3日(金)～6日(木) 特別御開帳 4月17日(金)～5月28日(木)

【御帰山】平成28年3月25日(金)～30日(木)

一光三尊佛の由来

一光三尊佛というのは、一つの光背に中尊として阿弥陀如来像が、その脇侍仏として向かって右に観音菩薩像と左に勢至菩薩像がお立ちなので「一光三尊」と申し上げています。聖人は毎日この尊像を礼拝され、念仏弘法に精進されました。今日においては、聖人直拝の御本尊は、この一光三尊佛のみであります。

です。庄松さまは、阿弥陀さまの「親心」をしっかりと受け止められておられます。そして親鸞聖人は、「無碍光佛は観音とあらわれ勢至としめす」と述べられています。



間近で尊い法縁をいただくご門徒一般ご参詣



釘貫門から山門をへて境内～本堂へ

無碍光佛とは阿弥陀さまの別名です。一人一人に光を届けてくださるのが阿弥陀さまですが、その光の中身を教えてください。慈悲の観音さまと智慧の勢至さまなのです。親の体は一つでも、「親心」には慈悲のぬくもりを、時には智慧の明るさを私に届けてください。十七年ごとに一光三尊佛さまに手を合わせるとき、あらためて「みおやの徳」の有り難さを確認するとともに、その味わいを深める新たなご徳聞の一步が始まります。

一光三尊佛 出開帳始まる

- 三尊様は、本寺へ御帰山される平成二十八年三月までの二年間、一般寺院へのお出向きになり、御同行の前で御開帳され、そのお姿を間近で拝することになります。
- これを「出開帳(でかいちよう)」といいます。福井県高田派では左記の寺院で出開帳がございます。尊い法縁を結ばれますようご案内申し上げます。
- ◎福井別院 平成二十七年三月十五日
- ◎本流院 平成二十七年五月三十日～三十一日
- ◎仙福寺 平成二十七年六月五日～七日
- ◎専福寺 平成二十七年九月十二日～十三日

福井県真宗高田派護法団 団長就任挨拶

古来、日本人が受け継いできた仏教。この素晴らしい東洋の精神文化の継承を。

安養院住職 松木 光仁

護法団理事役員名と担当業務 (平成二十六年五月〜平成二十八年五月)

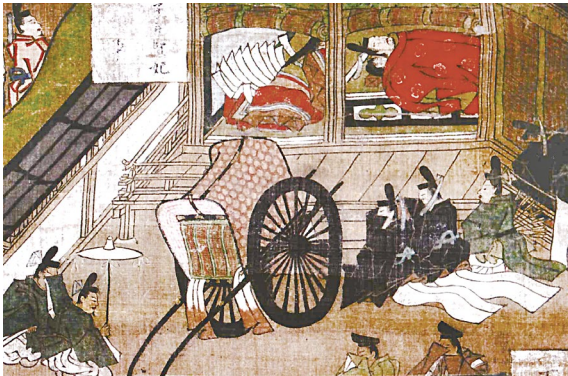
一組	安養院(団長) 松木 光仁 本流院(研修) 秦 顕乗 圓光寺(情宣) 徳照 慶壽 宝林寺(鑑勝) 南條 圓然 勝光寺(研修) 佐々木 俊昭
二組	大願寺(情宣) 畑 和光 光照寺(研修) 加藤 智性 教林寺(研修) 三浦 世雄 珠光寺(監事) 鳴海 賢昌
三組	法光寺(副團長) 佐々木 實弘 浄善寺(情宣) 朝倉 光宣 西生寺(研修) 橋本 昭壽 栄照寺(監事) 藤原 法寿



稱名寺本堂外観



県重要文化財聖徳太子絵伝巻六幅



県重要文化財聖徳太子絵伝巻六部分

私こと、この度はからずも福井県真宗高田派護法団々々の重責を担うことになりました。もとより浅学非才の身であります。が歴代団長の意志を継承しつつ護法団発展のため責務を全うすべく努力する所存でございます。前団長同様皆様の格段の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。



猫集 シリ／ズ福井の寺々 Ⅲ

越前高田派 寺院探訪

第三回 盛立山(黒目)稱名寺

盛綱五十六歳の時に親鸞の弟子となつて出家し、西念と号しました。その西念の子、光実が仁治二年(1241)頃、越前折立に開いたのが稱名寺の始まりです。その後、光実から数えて六代目の時に、稱名寺は北坊と南坊に分かれました。この時、寺宝も二分割し、北坊が善光寺如来伝を、南坊が聖徳太子絵伝を伝えることになったのです。さらに九代目の時、対立が大きくなり、南坊方は折立を出て海岸に移り、米納津に新たに一寺院を建立しました。しばらくは米納津にあったのですが、風砂の害に耐えられず、黒目の地に移転したのが、今の盛立山稱名寺(通称黒目稱名寺)です。移転したのは寛永二年(1625)のことです。



稱名寺山門外観

これより先、戦国時代のこと、高田派の諸寺院は一向一揆に反対する立場に立つて朝倉に加勢し、朝倉が織田信長によって滅ぼされると、今度はその信長方に味方しました。天正三年(1575)、信長軍に敗れた越前一向一揆の大將下間頼照が、加賀に逃れるため変装して三国湊を目指していた時、下野村で稱名寺門徒に見つかつて首を討ち取られます。当時の住職、慧祐はそれが下間頼照であることを一目で見抜きました。慧祐はそれが下間頼照であることを一目で見抜きました。慧祐はそれが下間頼照であることを一目で見抜きました。

盛立山稱名寺第二十九代住職 佐々木 心慧

現在、越前高田派には稱名寺という名の寺院が二カ寺あります。折立山稱名寺と盛立山稱名寺です。もとは一つの寺で、その開基は源頼朝に仕えた武士、佐々木三郎盛綱です。



木造聖徳太子木造式歳像(室町時代)

現在、越前高田派には稱名寺という名の寺院が二カ寺あります。折立山稱名寺と盛立山稱名寺です。もとは一つの寺で、その開基は源頼朝に仕えた武士、佐々木三郎盛綱です。



〒913-0037 福井県 坂井市三国町黒目 2-7 電話：0776-81-3005



思いやり・感謝で育む人・未来

かじそ仏壇

0120-54-1932

御用は 一休さんに

ホームページ <http://www.kajiso.co.jp/>

福井総本店: 福井県福井市米松 2丁目24-36 電話 0776-54-1933

和蠟燭・薫香の製造販売

コタイコキヤ

呉服町

小大玉香

0120-22-0986

福井市順化2-15-9

法衣・幕・旗・記念品・寺院用仏具
社寺建築・稚児貸衣装・仏壇

北山法衣仏具株式会社

〒910-0003 福井市松本3丁目13-16 (西別院前)

0120-52-1844

TEL: 0776-25-1844 / FAX: 0776-25-9108

ホームページ <http://www.kitayama.cc>

E-mail kihoui@skyblue.ocn.ne.jp

一般建設業(内装仕上工業業)福井県知事許可(般-11)第8681号

一口法話

如来のはからい

三組 法光寺住職 佐々木實弘

親鸞聖人は、「教行信証」の中で「しかるに愚禿積の鸞、建仁辛酉の曆(一一〇一年、鎌倉時代)、雑行を棄てて、本願に帰す」と記されました。九歳で得度された聖人は、二十年にわたる比叡山での修行の結果、得られたものは、「煩惱具足の凡夫のわが身」の発見でした。凡夫がそのまま救われるのは「本願に帰す」しかない」と示されました。「本願」とは

われるのは「本願」しかない、と結論付けられました。「凡夫のはからい」ではなくて、「如来のはからい」こそが、私たちをさとりに導く、という教えを示されたのでした。

このたび、護法副団長を務めることになりました。よろしく願います。

一口法話

命の本質

二組 稱名寺副住職 転法輪 正視

親鸞聖人は、阿弥陀様の願いによって建立されたお浄土を、「如来清浄本願の無生の生なりければ、本則三三の品なれど一二もはかることぞなき」と、「高僧和讃」に言われております。人間の世界には、賢い人、愚かな人、善人、悪人と様々な階層が出来るけれども、浄土の世界には上も下もない。虫の命も人間の命も全く同じ価値で輝いている、とおっしゃるのです。お釈迦様は、お生まれになつてすぐ七歩あるいて「天上天下唯我独尊」と言われております。一人一人、すべての命が尊いものであつて、比べるなどいふのです。お釈迦様の言葉こそ本当だと思ふのです。人は

皆、それぞれの命を生きています。同じ命も、同じ生き方もありません。皆、それぞれ違ふ生き方をしています。だから、本来比べようがないのです。それを私達は勝手に標準を作つて、善い悪いと言ひ比べているわけです。お釈迦様は比べようのない尊い仏の命なのだから、傲慢になることなく、又、卑下することもない、それが本当の豊かな命の領域だといわれております。

一口法話

仏教の教えが必要な時代

一組 宝林寺住職 南条 圓然

新聞やニュースを見てみると、若者が家族や友達を殺害したり、親が我が子を虐待するなど、残虐な事件が増えてきたように思います。また最近ではパソコンや携帯電話などが発達しても便利な世の中になりました。便利になった反面、人と人のふれあいやコミュニケーションが減少して

情も分からず自己中心になりがちです。このような時代だからこそ、「お蔭様で、私達は生かされている」という仏教の教えが必要なのではないかと思います。

コミュニケーションが減少して

このように



報恩講にご参詣ください。

報恩講は、真宗寺院及び檀信徒において最も大切な法要です。宗祖親鸞聖人の徳をたたえ恩に報いる法要です。



福井別院での報恩講風景

福井県内末寺 報恩講ご案内

月・寺院名・組別・住所・会期の順に掲載。お近くの高田末寺へもぜひお参りください。

6月	9月	11月	10月
慈照寺 ② 福井市尼ヶ谷第4日曜日	勝鬘寺 ② 福井市風尾 5~6日	本流院 ① 三国町加戸 1日	西光寺 ① あわら市中川 1日
浄善寺 ③ 福井市鹿保第3日曜日	信行寺 ① 三国町覚善 18日	大願寺 ② 三国町米納津 1~2日	榮照寺 ③ 大野市牛ヶ原 2~3日
鳳生寺 ① 三国町黒目 27日	稱名寺 ② 三国町黒目 28日	勝光寺 ① 坂井町上兵庫 2日	常楽寺 ① 三国町加戸 3日
願正寺 ① あわら市北潟 29日	西方寺 ③ 福井市縫原 29~30日	正行寺 ③ 福井市西天田 2~3日	松樹院 ① 三国町嵩 5日
		願教寺 ① あわら市北潟 3日	真浄寺 ③ 大野市庄林 6~7日
		仙福寺 ② 福井市足羽 3~4日	安養院 ① あわら市二面 8日
		寶幢寺 ② 三国町黒目 5~6日	勝願寺 ① あわら市北潟 10日
		珠光寺 ② 福井市南菅生 7日	法光寺 ③ 福井市栃原 10日
		専福寺 ② 大野市友兼 8~9日	勝久寺 ② 三国町山岸 11日
		寶林寺 ① 三国町神明 9日	圓光寺 ① 三国町梶 12日
		願教寺 ① 三国町浜地 10日	願生寺 ② 福井市御幸 12~13日
		西生寺 ③ 福井市折立 10~11日	願生寺 ② 福井市鮎川 13~15日
		勝林寺 ② 福井市小幡 12~13日	聖徳寺 ③ 福井市味見河内 17~18日
		高田別院 福井市花堂南 14~15日	法性寺 ② 福井市小丹生 20~21日
			法圓寺 ① 三国町北本町 21日
			教林寺 ② 三国町新保 23日
			遠成寺 ① 三国町南本町 25日
			稱名寺 ③ 福井市折立 25~26日

ご門徒の皆様へ 福井別院「護持費」納入のお願い 福井別院は、県下高田派寺院・檀信徒の皆様によって護持・運営されております。お手継のお寺様同様、福井別院へも懇念をお寄せいただきたく、納入をお願いいたしております。

福井別院護持費 (二檀家・年間) 五〇〇円

「護持費」納入方法 一、地区お世話方に納入 (お世話方はお手継お寺様へ納入) 一、直接、お手継お寺様へ納入

お寺様に集まった「護持費」は一括して別院へ納入していただいております。これまで未納の檀信徒の皆様にも、ぜひ「護持費」納入をお願い申し上げます。

大黒屋本舗 和蠟燭製造・薫香 卸 大黒屋本舗 〒918-8001 福井市つくも1丁目5の22 TEL(0776)36-3747(代) FAX(0776)36-7087

法衣・寺院用仏具・念珠・稚児貸衣装 仏教用品総合製作 ヒサノ法衣仏具 〒910-0019 福井市春山2丁目8-26 TEL:0776-21-3515 FAX:0776-21-3559 E-mail:hisano@ruby.ocn.ne.jp

株式会社 サワザキ佛壇店 〒910-0373 福井県坂井市丸岡町高柳2-16 TEL: 0776-66-6560 FAX: 0776-67-1050

高田青年の集い福井大会

一組 本流院 衆徒

開催 報告

四カ本山の歴史と今、そして高田派のこれから。ご存知でしょうか？福井県には真宗十派のうち四派の本山があります。総称して越前四カ本山と親しまれ、各派地域に密着した布教をされています。



四カ本山を巡拝しました。私は実行委員長として大会に携わったのですが、恥ずかしながら大会準備の時まで四カ本山を参拝したことがありませんでした。しかし、実際に訪れてみると、本堂伽藍の重厚さはもちろん、活動においても独自のアイデアを生かし、また支え合いながら今日に至っているという事の重みを感じ、改めて我々高田を見つめるきっかけになりました。



皆様も一度足を運ばれてはいかがでしょうか。宗派は違えど親鸞聖人の変わらぬお念仏。そして新たな発見があることでしょう。



基調講演風景

- 越前四カ本山
- 専照寺 真宗三門徒派本山 (福井市みのり)
- 誠照寺 真宗誠照寺派本山 (鯖江市本町)
- 證誠寺 真宗山元派本山 (鯖江市横越町)
- 毫撰寺 真宗出雲路派本山 (越前市清水頭町)

納骨は福井別院へ

「納骨に三重の本山までは少し遠いワ~!?!」

…と思いの方に福井別院でいつでも「納骨」と「お参り」が出来るようになりました。

福井別院 納骨堂のご案内

納骨・位牌堂は正面に阿弥陀如来を安置し両脇に24基の納骨壇。更にその左右には308基の位牌壇を安置してあります。お納め頂いたお位牌が阿弥陀如来を無数の仏が囲むが如く堂内全体がお浄土を現すようになっております。ぜひ一度、ご見学においでください。



納骨堂名=浄法雨堂(じょうほううどう) 命名:御法主殿

一般納骨のみ
ご遺骨は納骨口より合葬させていただきます。納骨は納骨口より合葬させていただきます。

位牌安置
ご遺骨は納骨口より合葬し別院仕様の位牌に表面「〇〇家先祖代々」裏面には「法名」をお彫りして安置します。

納骨壇安置
扉の付いた個別区画へ納骨していただきます。

別院納骨には次の四通りの方法がございます。

合葬納骨口
本尊阿弥陀如来像下の引戸内に「南無阿弥陀仏」の名号と「倶会一処の合葬納骨口」有りの方々に一同に安置・恭敬させていただきます。

位牌壇 全308基

納骨壇 全24基

納骨・位牌堂冥加金

- 納骨壇 五十万円
- 位牌壇 三万円
- 一般納骨のみ 一万五千元

加入手続きに必要な書類等

- 納骨壇・位牌壇使用許可書 (申込者の署名捺印・所属寺院住職の署名捺印)
- 納骨壇・位牌壇使用許可誓約書 (申込者の署名捺印)
- 加入冥加金

納骨壇加入の諸注意

- 納骨壇・位牌壇には別院の許可申請が必要です。
- 加入手続きに必要な書類などに記されている書類及び冥加金を添えてお申込みいただきます。
- 納骨壇・位牌壇の使用場所の指定はできません。お申込の順に使用場所の指定をします。
- 納骨壇・位牌壇の加入予約、仮押さえはできません。
- 納骨壇は墓地ではありません。分骨としてご遺骨の一部を納骨していただきます。
- 一度納められたご遺骨はお返しすることできません。時的なご遺骨の保管場所ではないことに留意ください。
- 納骨壇への納骨後について
- 使用している納骨壇への新たな納骨には、別院の許可を要します。
- 別院では年回、年忌等の法事のお勤めはいたしております。
- 年回、年忌等の法事以外の読経は随時受け付けております。

納骨位牌堂のパンフレットをご希望のお檀家に差上げます。
お電話で福井別院までお申込みください。郵送にてお届けいたします。

今年9月15日 厳修 「納骨・位牌堂法会」
納骨位牌堂ご加入のお檀家には事前にご連絡申し上げます。

納骨に関する受付業務は 午前9時から午後4時迄です。



真宗高田派専修寺

福井別院

〒918-8015 福井県福井市花堂南2丁目10-35 電話:0776-35-2299/FAX:0776-35-2291
Mail:fukuitakadabetsuin@orange.plala.or.jp

福井別院年間法要

1月:御正忌/3月:春季彼岸会/5月:宗祖聖人降誕会/7月:永代経
9月:納骨位牌堂法会・秋季彼岸会/11月:報恩講

